

交流スペース管理運営計画

(新県立中央図書館管理運営計画別冊)

令和3年9月
静岡県教育委員会

目次

第1章	交流スペース管理運営計画の策定にあたって	3
1-1	背景.....	3
1-2	本計画の位置づけ.....	4
1-3	計画の構成.....	5
1-4	交流スペースのねらい.....	6
1-5	メインターゲットとする利用者像.....	7
1-6	導入機能.....	8
第2章	事業計画	9
2-1	事業構成.....	9
2-2	地域連携.....	14
第3章	備品計画	15
3-1	活用する備品.....	15
3-2	施設整備との関係性.....	17
3-3	施設維持管理.....	17
第4章	運営計画	18
4-1	基本方針.....	18
4-2	運営手法.....	19

第1章 交流スペース管理運営計画の策定にあたって

1-1 背景

新県立中央図書館の整備については、「新県立中央図書館基本構想」(平成30年3月)において、4つの目指すべき姿を提示し、「新県立中央図書館基本計画」(平成31年3月)において、これを具現化するため、県民の知のインフラとして県立図書館が果たすべき役割を確実に果たすとともに、未来につながる新しいタイプの図書館となることを目指している。

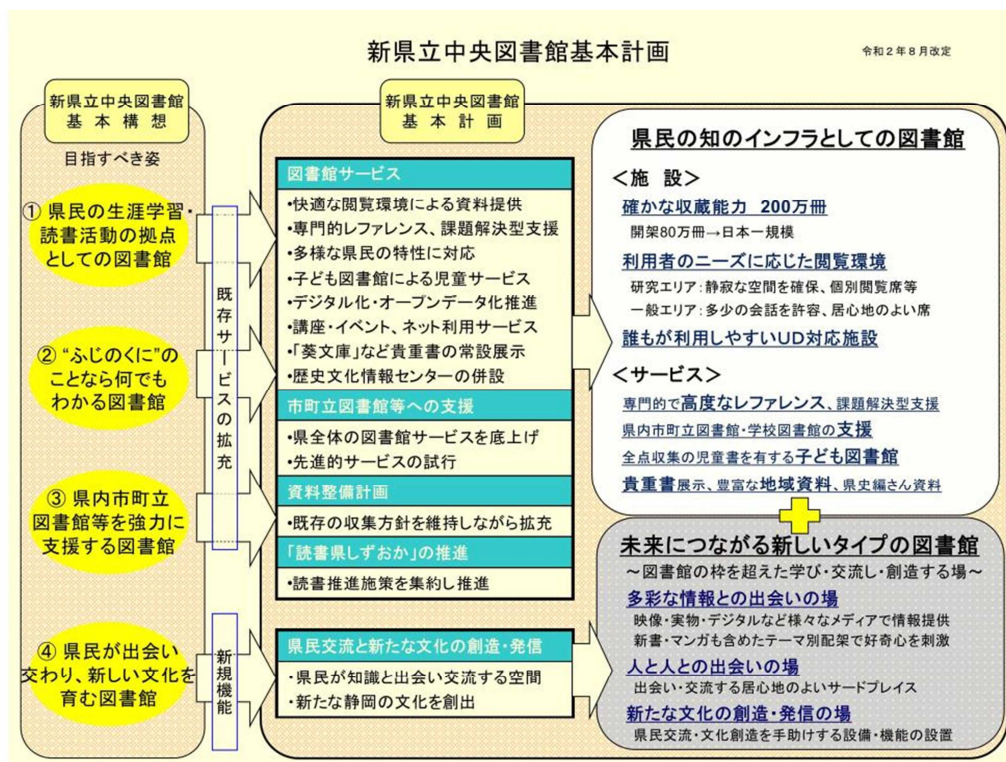


図 1-1 新県立中央図書館基本構想・基本計画の概要

新しいタイプの図書館は、多彩な情報との出会いの場、人と人との出会いの場、新たな文化の創造・発信の場として学び・交流し、創造する場を提供する。従来の図書館機能とは発想を変えたこの要素を具現化するのが「交流スペース」であり、既存サービスの拡充をベースに策定した管理運営計画と区別して、交流スペース管理運営計画(以下、「本計画」という)を別冊として策定することとした。

1-2 本計画の位置づけ

本計画は、「新県立中央図書館基本計画」(平成31年3月)を踏まえ、多くの人が訪れ、持続可能な施設とするための事業計画、運営計画などを示した「新県立中央図書館管理運営計画」のうち、交流スペース部分について示すものである。

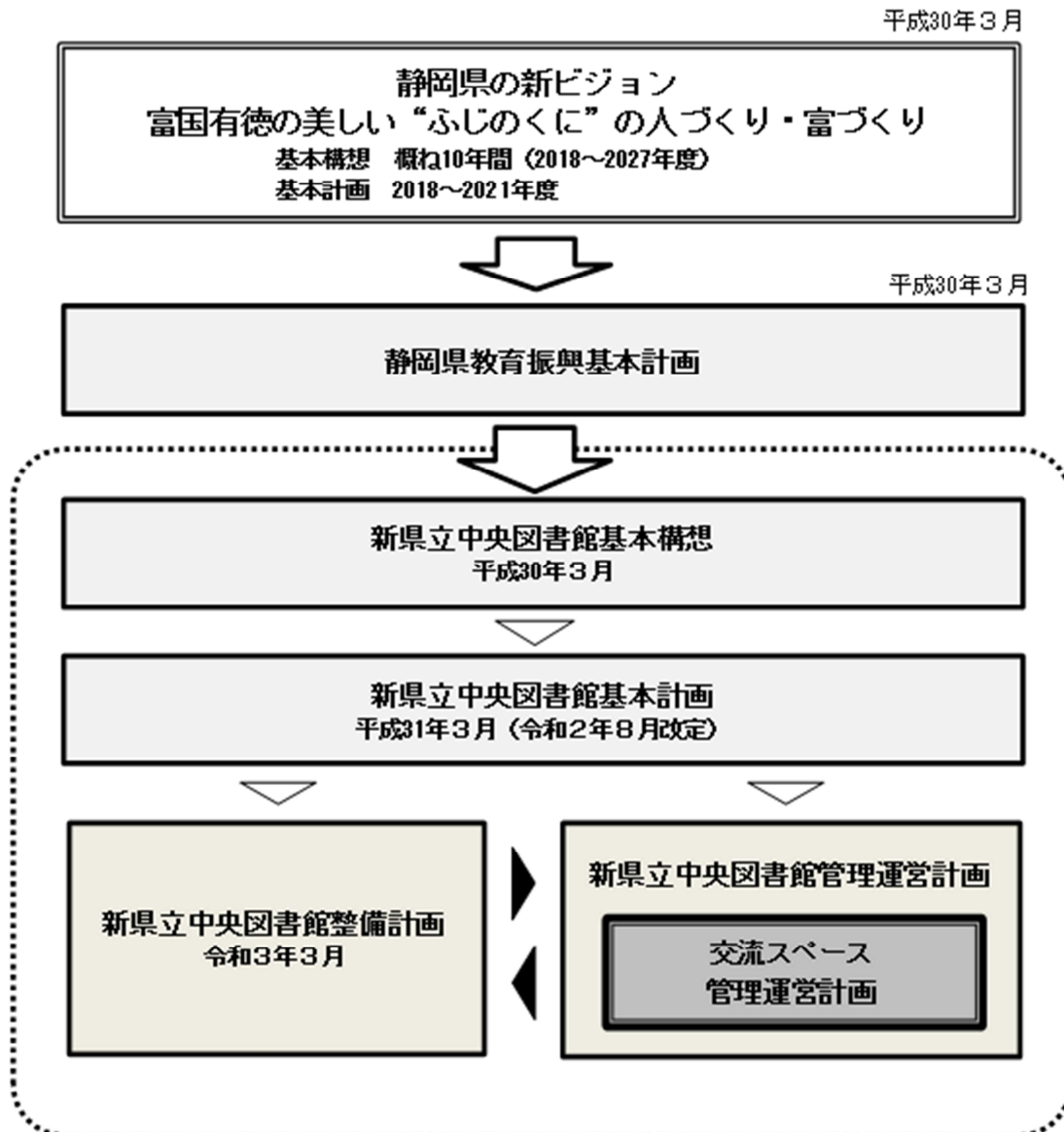


図 1-2 計画の位置づけ

1-3 計画の構成

本計画は、以下の項目によって構成される。

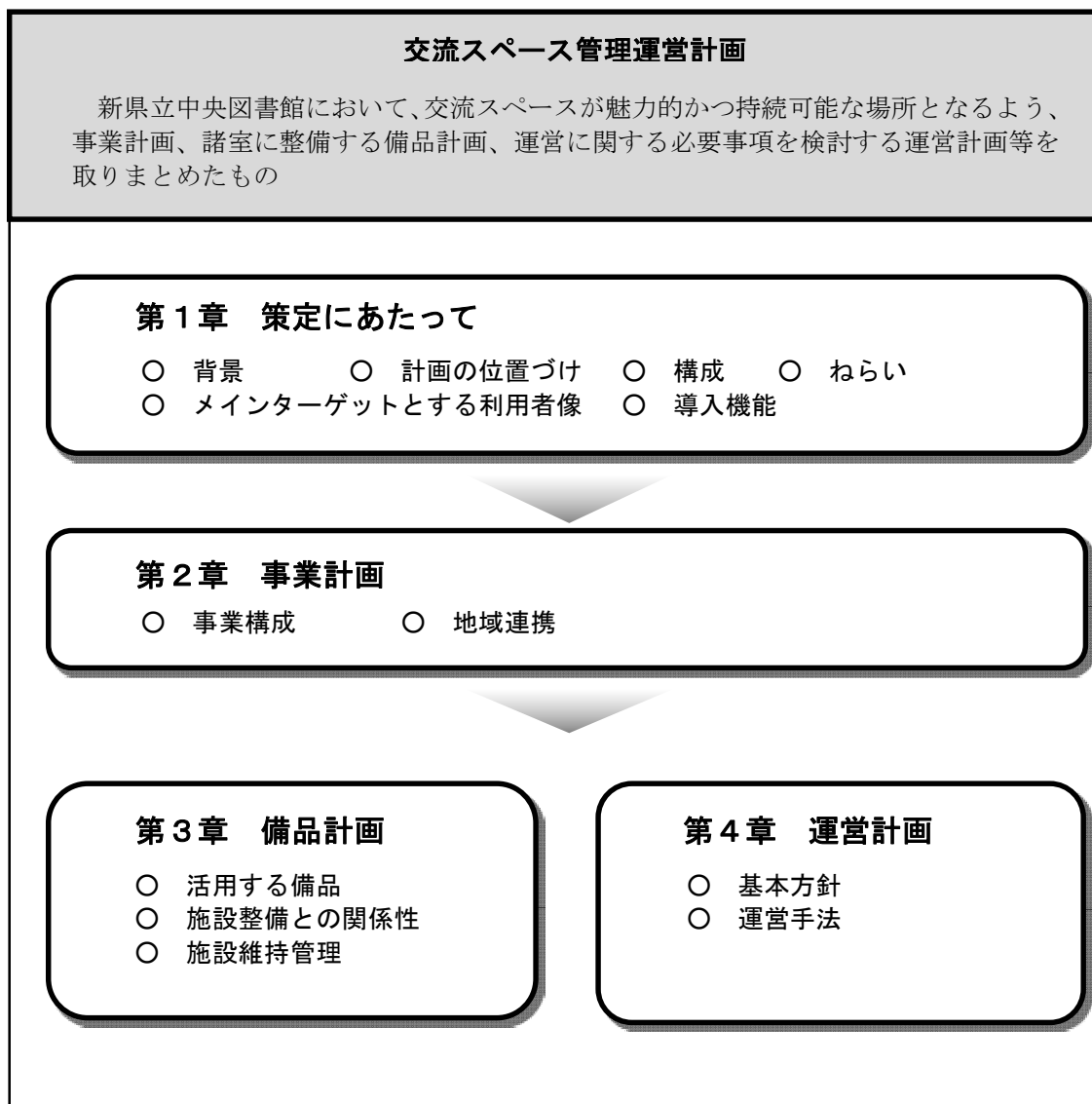


図 1-3 交流スペース管理運営計画の構成

1-4 交流スペースのねらい

「交流スペース」は、未来につながる新しいタイプの図書館として、図書館の理念にのっとり、様々な立場の全ての人々が自由に利用できる図書館ならではの公共性を活かし、**図書館利用の新しい形を提示**する。駅前の交通至便な立地から見込まれる、今まで図書館を利用したことのない多数の来館者に対して、図書館利用のきっかけ作りとなる体験を提供し、居住地域の公共図書館や県立図書館本体部の利用につなげていく。また、既存の図書館ユーザーに対しては、紙媒体に限らない多様な情報の拠点として、サードプレイスとして、交流、活動の場として、図書館の新たな活用スタイルを提示し、利用の深化を図る。

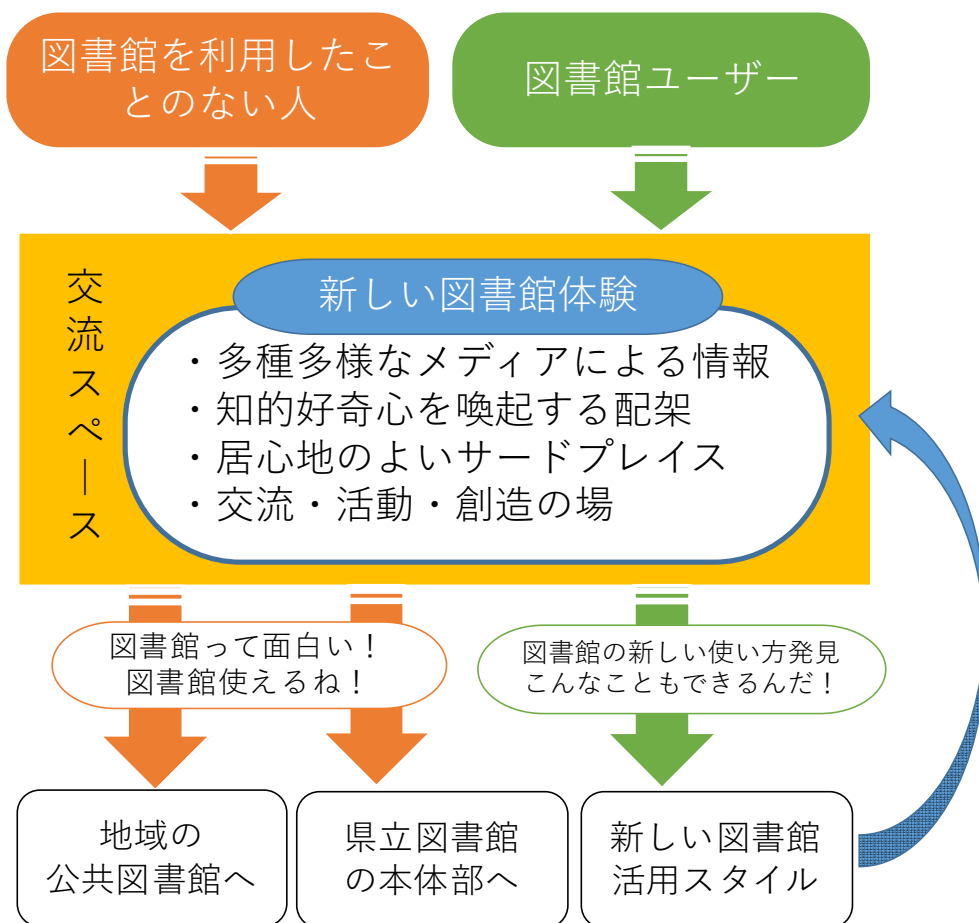


図 1-4「交流スペース」の役割

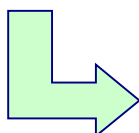
未来につながる新しいタイプの図書館 の具現化
⇒ 図書館利用の新しいスタイルを提示
県内図書館利用の促進

1-5 メインターゲットとする利用者像

本施設の設置効果の最大化を図るためには、主な利用者像を設定し、その利用者像が持つ特徴に対して魅力的な事業内容や利用しやすい運営形態を整える方針とする。東静岡の地域特性を踏まえ、主な利用者像を以下の通り新たに想定する。

表 1-1 利用者想定

東静岡の地域特性	来る人はどんな人	来る人のアクション	提供するもの	得られる満足感	図書館の想い	
平日は学生が多い バスの時間調整 夕方は高校生が 通学で通る	若者世代（学生）					
	学生全般	息抜き、ひまつぶし	本に興味を持ってもらえそうなもの（身近な話題、キャッチーな見出し）	本って面白いかも 興味の幅を広げて、のめりこめる何かに出会う	本の世界への入り口、面白いと思っ てもらおう/本で生活を豊かにする、 何かのきっかけになる	
		人目を気にせず長居できる空間		居心地がいい	「居場所」として使ってほしい	
		仲間が集まる	多少うるさくしても何も言われない場所		いつでも仲間と集まれる場所がある	サードプレイスとして使ってほしい
		学校で学んだことを実践してみたい	地域や生活の困ったことをみんなで解決するプロジェクト		学校で学ぶことが役に立った、もつと勉強したい	学びの実践の場を提供し、学ぶ意欲をかき立てる
		出会いへの期待	モチベーションになるような人との出会い		やりたいことを見つけた！ 将来を決めるきっかけに出会う	何かのきっかけになるような情報を提供したい
		研究や就活のヒント探し	静岡の企業（すごい技、職人、業界）等、静岡が誇る資源の紹介		新しい静岡の魅力を見つけた 静岡で働きたい	静岡に住みたいという動機のひとつになるような図書館
	起業について知りたい	体験談、起業相談、起業体験 人脈を広げる交流会		将来設計を考える、具体化する	静岡県内の地方創生を支援	
	自己啓発	目標にしたい存在との出会いや協働した活動		自己実現欲求を満たす 目標を見つけた	図書館に来れば、何か見つかるという場所になる	
	留学生	日本・静岡のことを知りたい	日本での生活の参考になる本		生活がしやすくなった	静岡で充実した生活を送ってほしい
自国の文化を伝えたい		多様な価値観に触れられる交流会 情報発信の場		学校以外の場所で仲間ができた	自国の文化について発信してほしい	
周辺にタワーマンション 子育て中の家族が多い	子ども	学校以外の活動の場に行ってみよう	学生、大人と一緒に活動できる機会	興味の幅を広げてのめりこめる何かに出会う、学校以外で地域と繋がる	地域のつながりの核として機能する	
	子どもと親で	子どもを本に親しませたい	身近な話題に関する本、漫画、写真集などビジュアルも楽しめる本	本って面白いかも	本の世界への入り口、面白いと思っ てもらおう	
	働き盛り世代（子育て世代）					
	働き盛り世代（子育て中の親）	気分転換	幅広い話題、多様な人との交流 1人の世界に没頭できる空間		心を落ち着けられる癒やしの場を見つけた	サードプレイスとして使ってほしい
		子育て中の息抜き	子育てに関する本、体験談		同じ悩みを共有できた、気持ちが楽になった	悩みの解決を手伝える図書館
		趣味を深める、広げる	幅広いジャンルに関する資料 趣味を中心にしたサークル活動の場		知的好奇心をかき立てられた 興味を共有できる仲間と出会えた	近くにあるこんなに便利 ライフスタイルに合わせて使いこなしてほしい
		勉強する	心地よい学習スペース 本館には学術書、専門書、データペーパーもある		知的好奇心	近くにあるこんなに便利 ライフスタイルに合わせて使いこなしてほしい
		仕事する場所	心地よいワークスペース 人脈を広げる交流会		人脈を活かして新しい事業を始めてみたい	地域と密着した事業を支援して静岡を活性化させる
	静岡の遊び場、店など毎日の楽しみを探す	静岡の新しい発見		図書館に行けば、静岡がもっと好きになる	静岡県をずっと住みたい場所にする	
	静岡駅から一駅 東静岡駅隣接	通勤、通学者	待ち時間での利用 定期で来られるから来てみた	興味を引く多彩な資料 夜間でも参加できる講座	自分の生活リズムを崩さずに図書館を利用できる	生涯学習の推進
アクティブシニア		社会との接点を持ちたい 自分の技術を若い世代に伝えたい	県民の技術を共有する交流会、技術を使ってプロジェクトの開催	退職後も自分のスキルを活かしたやりがいを見つけた	県民の技術を次世代に伝える	



<新たなメインターゲット>

①若者世代(学生)

②働き盛り世代(子育て世代)

※メインターゲットを中心に、あらゆる世代に利用される施設を目指す

1-6 導入機能

従来の図書館の枠を超えて、未来につながる新しいタイプの図書館を実現するために、「学ぶ」「交流する」「創造する」の3つ機能を導入し、その活動が循環・継続されるよう整備を行う。

(1) 学ぶ ～多彩な情報との出会いの場～

図書館はあらゆる情報の拠点である。交流スペースでは、紙媒体の資料に限らず、デジタル化された大量のデータや映像、音声、工業製品や美術作品など、多種多様な情報に触れる体験ができる。

また、幅広いジャンルの本を、利用者の興味を引くテーマでキュレーションを施しながら配架する。図書館に対する敷居を下げて新たな利用者層に本の世界の楽しさを知るきっかけとし、ふと目に留まった本から関連書籍に興味を広がり、知の探究につながる体験を提供する。

さらに、各テーマに関するセミナーや体験講座などにより、五感を通じた学びの機会を提供する。

(2) 交流する ～人と人との出会いの場～

アフターコロナ時代にあっては、人々が仮想空間に活動の場を求める度合いが高くなるのと同時に、その対比としてリアルな体験や交流の重要性も見直されると考えられる。交流スペースは仮想空間と実空間の橋渡しとして、人と人が多種多様な情報を媒介に現実に出会い、交流の中から新たな情報や文化を生み出すプラットフォームとなる。

来館者が気軽に交流できる開放的な空間を設けることにより、利用者相互の自由な情報交換の場を提供する。目的を持って集まった人々の活動の場となるほか、安心して過ごせる居心地の良いサードプレイスとして目的の有無に関係なく過ごせる空間を提供する。

(3) 創造する ～新たな情報や文化の創造・発信の場～

様々な情報から得られた知識を、現実の体験・活動を通じてさらに醸成し、新たな情報や文化の創造を期す。地域の課題解決に向けたプロジェクトなど、様々な創造活動を実施するとともに、県民の自主的な活動を支援する。また、様々な創造活動に対応できる専門性の高い機材や什器を有するラボの設置やアドバイザーによる専門的な活動支援など、創造活動を行う場を提供する。活動成果の発表、発信する場をリアルとオンラインとに設け、次の文化創造活動につながる循環を生み出す。

学ぶ ～多彩な情報との出会いの場～	交流する ～人と人との出会いの場～	創造する ～新たな情報や文化の創造・発信の場～
<ul style="list-style-type: none">○多種多様なメディアを活用した情報提供○知的好奇心を刺激するテーマを設定し、幅広いジャンルの本を配架○気軽に参加できる体験講座・イベントの実施	<ul style="list-style-type: none">○利用者相互の自由な情報交換の場の提供○交流を活性化させるイベント・事業の実施○安心して過ごせる居心地の良いサードプレイスの提供	<ul style="list-style-type: none">○様々な創造活動に対応したラボの設置○課題解決に向けたプロジェクトの実施○創造活動成果の発表・発信

図 1-5 交流スペースの導入機能

第2章 事業計画

2-1 事業構成

交流スペースで提供する「①学ぶ～多彩な情報との出会いの場～」 「②交流する～人と人との出会いの場～」 「③創造する～新たな情報や文化の創造・発信の場～」の3つの機能は、各機能がつながりを持って、「学びを深め、知性の交流を生み、創造活動につながる」流れを生み出すことで、知識や経験の多寡にかかわらず、関心を持つ誰もが活動に参加し、主体的に活動していく環境をつくることが可能となる。また、創造活動の成果や新しい情報を発信することで新たな利用者の活動のきっかけとなり、「学ぶ、交流する、創造する」という活動を循環していく。

これらの機能を踏まえ、本施設が実施する事業を「学び事業」「交流事業」「創造事業」と設定する。

「学ぶ→交流する→創造“し続ける”」スパイラルアップを創出

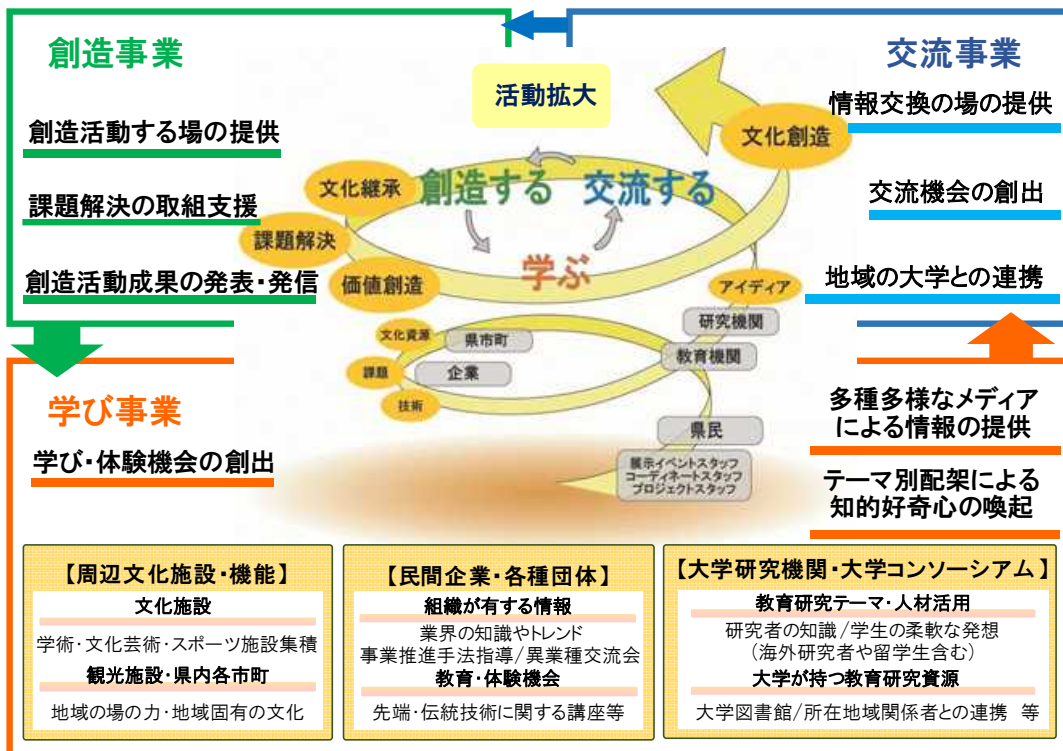


図 2-1 3つの段階につながりを持って、一連の構成プログラムとして提供するイメージ

交流スペース ～県民の学び・交流・創造拠点～

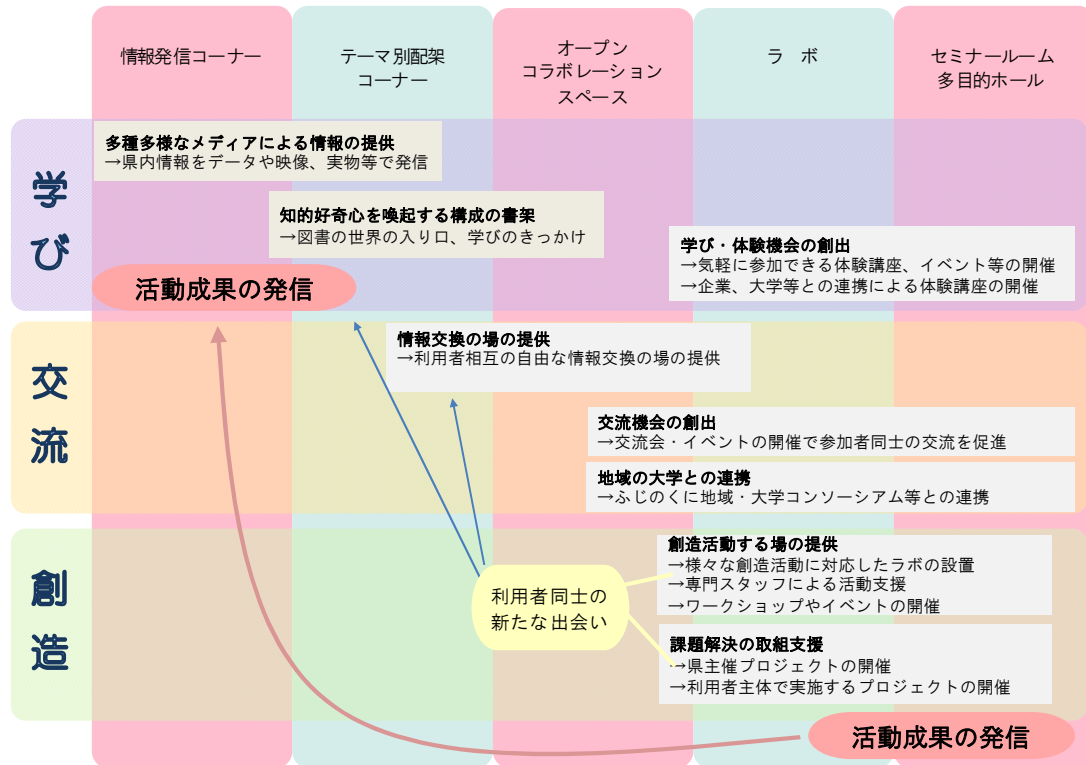


図 2-2 各事業の構成、ゆるやかに連動するイメージ

(1) 学び事業

多種多様なメディアによる多彩な情報を提供するとともに、知的好奇心を喚起する展示・配架方法で、図書をはじめとした学びのきっかけをつくる。

ア 多種多様なメディアによる情報の提供

情報発信コーナーを活用し、紙媒体に限らない、デジタルデータ、映像、音声、実物など多様なメディアによる情報を提供する。県内市町立図書館及び文化施設、行政機関、各種団体等と連携して、地域性や独自性、即時性を活かした展示により、魅力的な情報を提供する。

(例)

- 県内のあらゆるイベント情報や行政情報が大型ディスプレイに流れていて、タッチすると関連情報にアクセス。居ながらにして3Dデータで美術品を鑑賞。
- リアルタイムのオープンデータで、静岡県を今を視覚的に表現。(例:人口動態、土木インフラデータ)
- 県の重点施策やプロジェクトについて、映像、実物展示などメディアミックスで紹介。

イ テーマ別配架による知的好奇心の喚起

テーマ別配架コーナーにおいて、分かりやすく関心を深めやすいテーマを設定し、マンガやMOOKなども含め選書基準に縛られずに図書を選書し配架する。興味を引くサブテーマを設定し、面出しや関連する活動や作品の展示など工夫を凝らした展示で、本の世界の楽しさを発信する。

(例) テーマ設定の案

- 静岡と世界をつなぐ
静岡の企業／活躍する人／歴史／産業・経済／教育・文化／静岡が舞台の作品／静岡のむかし・いま・これから など
- よりよい未来のために
これからを考える／防災／多様な人々／環境／国際／人口減少／SDG's など
- 技を磨く
静岡の伝統工芸／ものづくり／手芸／工芸／料理／映像編集／写真 など

ウ 学び・体験機会の創出

多数の県民の来館動機づけや活動への関心を醸成するため、本県の地域課題や社会動向等のテーマに沿った、気軽な体験、連続講座、イベント等を多様な形態で実施する。

地域の課題等の実状を踏まえたうえで、県民が関心を持ち気軽な参加を促す、魅力的な内容となるよう企画する。加えて、専門的な設備・備品を使用した本格的な体験講座も用意し、創造活動に必要なスキルや学びを提供する。それにより、県民が自主的に学びを継続し、仲間とともに新しい情報や文化の創造や課題解決に向けた創造活動に主体的に取り組めるようにする。

体験講座やイベント等の開催は、規模や内容に応じて多目的ホールやセミナールーム、ラボ、オープンコラボレーションスペースを活用する。オープンコラボレーションスペースでは、誰でも気軽に参加しやすい内容で開催し、多目的ホールやセミナールーム、ラボ等で開催される専門的なものへの参加につなぐ。

(例)

- 富士山、お茶、文学など、本県について総合的に学ぶ場・機会づくり
- テーマ性を持った講演会・ワークショップ等の開催
- 企業や大学と連携した体験講座やイベントの開催 等

(2) 交流事業

多様な人々が交流し、相互理解を深め、連携を生む取組を実施する。

ア 情報交換の場の提供

オープンコラボレーションスペースを活用し、利用者相互の自由な情報交換の場を提供する。オープンコラボレーションスペースは交流スペースの中心として位置付け、来訪者が気軽に多くの人々と交流できる開放的な空間とする。多人数でディスカッションを実施したり、1人で本を読みながらくつろいだり、様々な用途で自由に使用できる居心地の良いサードプレイスとし、人や知性との新たな出会いのきっかけを提供する。

イ 交流機会の創出

県民が創造活動を身近に感じ、所属や立場の枠を超え、利用者間で活発に情報交換ができるよう、交流スペースの諸室を活用した交流会や大規模イベントなどを開催する。参加者同士の自由な交流を促し、同じ趣味嗜好を持った者同士の出会いにより、新たな興味の獲得や活動の発展を生み出す。

また、施設外でも活動が展開できるよう、SNSなどを活用した情報提供や交流促進に努める。交流会等の開催により、産官学民の枠を超えた仲間やアイデアとの出会い、ネットワークを広げる機会とする。

ウ 地域の大学との連携

施設内に相談窓口・職員事務室が設置される「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」等と連携し、地元大学生や外国人留学生の参画を得て、世代間交流や、異文化理解を促す交流会などを開催する。

(3) 創造事業

様々な創造活動に対応できる場を提供するとともに、課題解決の取組支援や活動成果の発信を行い、新たな情報や文化の創造活動につながる循環を生み出す。

ア 創造活動する場の提供

様々な創造活動に対応できる専門性の高い設備・備品を有する諸室(ラボ)を活用する。ラボでは多彩な体験講座や課題解決プロジェクト等を実施する。県民が興味に応じて体験・試行ができる場所とし、幅広く実践の機会を提供する。

なお、県主催事業で使用する時間帯以外の空き時間は施設貸出を行い、県民による自主的な創造活動を支援する。

イ 課題解決の取組支援

新しい情報や文化の創造や地域の課題解決を目指した創造活動・プロジェクトを実施する。プロジェクトは、課題解決など、ある特定の目的に向けて行う連続した活動を指し、県(運営事業者)が主導的に実施するプロジェクトと、県民が主体的に実施するプロジェクトに大別される。

県主催プロジェクトは、県が重点を置く県民向け施策等をテーマに設定し、年間を通じた連続講座・イベントを行い参加を促進する。また、県民が能力開発や地域課題達成のため、自発的・長期的に行う取組を県民主権プロジェクトとして支援する。

(ア) 県が主導的に実施するプロジェクト(県主催プロジェクト)

体験講座の参加者等、関心を持つ県民に参加を呼びかけ、プロジェクトチームを形成する。テーマに即した知見を有し、プロジェクトを主導する専門人材(プロジェクトディレクター)を配置する。また、プロジェクト推進に必要な基礎知識などは、体験講座を通じて提供する。

(イ) 県民が主体的に実施するプロジェクト(県民主権プロジェクト)

体験講座への参加や県民自身が持つ関心事をきっかけに、県民が主体的に集まり取り組むプロジェクトの実施を期待する。

プロジェクトを支援する専門スタッフ(プロジェクトスタッフ)を配置し、県民の自主的なプロジェクトチーム形成を促し、活動の活発化を狙う。

利用者が自発的に仲間を集め活動していくことを想定しているため、開館後徐々にプロジェクトが立ち上がっていくことを目指す。

表 2-1 各諸室で想定される体験講座・プロジェクト例

例:「FUJIYAMA はじめてスクール」(富士登山をテーマとした企画)

諸室名	体験講座・プロジェクト(例)
メディア・ICTラボ	<ul style="list-style-type: none">富士登山者へのごみ持ち帰り啓発アプリの開発登山初心者に向けた知識や体力向上を目指した動画制作、配信
キッチンラボ	<ul style="list-style-type: none">登山におすすめの郷土料理体験環境による味覚の変化を体験する講座
ものづくりラボ	<ul style="list-style-type: none">富士登山者へのごみ投棄防止啓発ツールとして、デザイン性のあるごみ袋や水溶性ティッシュ等の制作観光客が短時間で制作し持ち帰ることができる my ふじさんグッズの制作富士山植生植物や動物の模型アート制作
音楽ラボ	<ul style="list-style-type: none">登山に必要な普段意識しない人間の五感を体験するワークショップ(暗闇体験、音当てクイズ等)富士山をキーワードとした作曲、合奏
多目的ラボ	<ul style="list-style-type: none">富士登山への挑戦や登山における注意点をテーマとした演劇創作自身の体力計測や、緊急対応時に役立つワークショップ登山に必要な体力向上プログラムとしてのニュースポーツ開発

ウ 創造活動成果の発表・発信

創造活動やプロジェクトの成果は随時 Web 配信するほか、情報発信コーナー等での展示、多目的ホールやセミナールームでの発表など、リアルとオンラインとで幅広く情報発信する。これにより、興味を持った県民が新しいアイデアを生み出したり、活動グループに参入したりするきっかけをつくり、次の創造活動につながる循環を生み出す。

2-2 地域連携

(1) 各関係者との連携

ア 周辺文化施設や機能との連携

東静岡地区及び周辺エリアは静岡県コンベンションアーツセンター(グランシップ)や静岡県舞台芸術センター(SPAC)をはじめとしたムセイオン静岡を構成する文化施設や大学研究機関など、本県を代表とする学術、文化・芸術、スポーツ拠点が集積し、名勝日本平や三保の松原など風光明媚な地域の場の力と、それら魅力を発信する観光施設も有するエリアである。また、県内には世界でも高いシェアを誇る産業や技術があり、県内各市町にも伝統芸能・伝統工芸技術など魅力ある地域固有の文化が存在する。

それら地域ニーズや課題把握、関係者同士の交流や連携を図り、施設運営事業に対して様々な知見を共有し、事業の充実に努める。

イ 地域との連携

魅力的で持続的な事業創出を展開していくためには、活動の担い手である地域や県民との協働が必須となる。そのため、本施設の運営に地域参画の仕組みを取り入れることで、地域が有する文化や資源(技術や人的ネットワーク等含め)、抱える課題を共有する。それらを通じて本県らしい地域性を有した展示・体験講座及びプロジェクト開発、空間づくりを実現し、新しい情報や文化の創造につなげる。

同時に地域参画の仕組みを通じて、地域間の交流促進と事業推進の協力体制を構築する。協働するなかで地域・県・運営事業者それぞれが持つ知見や経験、ノウハウなどが蓄積されていくことで、次代のふじのくにを担う人づくり・まちづくりにも資することが期待できる。

(2) 連携の仕組みづくり

様々な関係者と連携や協働を図り事業を推進するため、各種会議体の設置等連携の仕組みづくり等を行う。そこでは、情報・課題共有やそれを基にした体験講座・プロジェクトの検討及び実施に向けた協働体制の形成などを行う。参加者や開催頻度は目的に合わせて設定し、運用する。

第3章 備品計画

3-1 活用する備品

「学ぶ」「交流する」「創造する」の3つの機能を満たすため、約1万冊を配架するテーマ別配架コーナーや、県民の交流・連携を促すための開放的なオープンコラボレーションスペース、県民の学びや創造の場となるセミナールームやラボなどを整備する。県民の活動を促進するためには、これらの諸室に効果的な備品を配置する必要があり、想定例は以下のとおりである。

表 3-1 備品想定例

諸室名		想定される什器備品等	
サービスエリア	情報発信コーナー	デジタルサイネージシステム、スポットスピーカー、印刷機能付インフォメーションボード、大規模空間演出システム、ターンテーブル、実物展示台、プロジェクションマッピング、プロジェクター、Web配信用カメラ、ドーム型AVシアター、3D投影装置、効果的な音響・照明機器 など	
	テーマ別配架コーナー	テーマ別配架コーナーで配架する図書、1テーマあたり1,000冊程度を収納可能な棚(うち100冊程度を面出しし、テーマに関する映像や実物を併せて展示できる、書架と展示棚を兼ねたもの)、テーブル、椅子、ソファ、各種映像モニター、デジタルサイネージ など	
	オープンコラボレーションスペース	大人数～少人数・個人と多様な用途を想定したテーブル、椅子、ソファ(イベント開催時には移動、収納を想定)、大型スクリーン、3D投影装置、効果的な音響・照明機器、グランドピアノ・エレクトーン・電子ピアノ、可動式ステージ、Web配信システム、プロジェクター など	
	多目的ホール	ホール講演設備(遮光カーテン、映像スクリーン、プロジェクター投影機器、音響設備、昇降ボタン等)、eスポーツの大会が開催できる設備一式、可動式ステージ、Web配信システム、演題、司会台、椅子 など	
	セミナールーム	・全室共通:机、椅子、ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン ・180㎡のセミナールームのみ:ホール講演設備(遮光カーテン、映像スクリーン、プロジェクター投影機器、音響設備、昇降ボタン等)、Web配信システム、演題、司会台 など	
	ラボ	メディア・ICTラボ	<映像撮影スペース>クロマキー用機材、照明機材、デジタルビデオカメラ・周辺機材 <調整室>撮影映像調整機材 <PCエリア>PC・周辺機材、印刷機材、収納棚、Web配信システム、レクチャー用PC等機材一式 など
		キッチンラボ	業務用厨房、水洗いユニット、換気ユニット、作業調理台、椅子、業務用冷凍冷蔵庫、製氷機、オープンレンジ、フードプリンター、調理器具、レクチャー用PC等機材一式、試食スペース、Web配信システム、食器棚、物品棚 など
		ものづくりラボ	水洗ユニット、換気ユニット、3Dプリンター、レーザーカッター、サンドブラストマシン、3Dモデリングマシン、3Dスキャナ等デジタル工作機器、各種工作機材、縫製用機材、イーゼル、清掃用機材、材料保管棚、収納棚、作業台、椅子、Web配信システム、レクチャー用PC等機材一式 など
		音楽ラボ	楽器等一式(ドラムセット、各種アンプセット、マイクセット、譜面台等)、録音機材(PC、マイク等)、大型鏡、Web配信システム など
		多目的ラボA	スポーツ用品一式(各種ボール、スコアボード、マット等)、音響設備、大型鏡、Web配信システム <更衣室>下駄箱、ロッカー <その他>会議用テーブル、椅子 など
		多目的ラボB	アップライトピアノ、ピアノ付属品(椅子、譜面台、メトロノーム、カバー、キャスター等)、電子鍵盤楽器、音響設備、譜面台、楽器収納棚、Web配信システム、椅子 <その他>会議用テーブル など
		多目的ラボC・D	机、椅子 など
	受付カウンター、バックヤード	カウンターテーブル、作業テーブル、椅子、デジタルサイネージ、PC周辺機器、職員用ロッカー(ダイヤル式) など	
	総合案内カウンター	カウンターテーブル、職員用椅子、デジタルサイネージ、PC周辺機器 など	
大学コンソーシアム相談窓口	カウンターテーブル、事務机、椅子、書類棚、職員用ロッカー、打合せ用テーブル、椅子 など		
管理・共有エリア	運営事務室	<執務スペース>PC、周辺機器、業務用複合コピー機、ワークデスク、椅子、打合せテーブル、椅子、作業台、書類棚、シュレッダー、テレビ機器等 <休憩スペース>テーブル、椅子 <ロッカー室(男女別)>ロッカー など	
	備品倉庫	収納棚	

3-2 施設整備との関係性

交流スペースは新県立中央図書館の一部であることから、施設全体の統一感や、交流スペース以外の機能と相乗効果を生む空間づくりが求められる。そこで、内装・設備設計については、新県立中央図書館全体の設計を計画する中で検討し、施設全体で「新県立中央図書館基本計画」に掲げる目指すべき姿の実現を図る。

備品調達については、県民の活動を支援する運営者の意向が反映できるようなスケジュールや仕組みとなるよう配慮する。そのため、運営事業者の決定時期により、事業活動に関わる備品の調達は運営事業者の開館準備業務範囲に含めることを検討する。

また、運営の一貫性を確保するためには、開館後の運営事業者が開館準備業務を担うことが望まれるため、運営事業者の選定方法や含まれる業務内容については、引き続き検討する。

3-3 施設維持管理

交流スペースは、従来の図書館機能と繋がり相互補完する関係であることから、安心・安全かつ円滑な事業運営のため、開館時間は施設全体で統一することを想定し(カフェを除く)、清掃や警備、施設維持管理業務についても可能な限りまとめて実施するなど、施設全体で調整を図り、効率的かつ効果的な施設管理手法を検討する。

想定する開館日・開館時間については、新たなメインターゲットである学生等の若者世代や働き盛りの世代をはじめ、多様なライフスタイルやニーズを持つ利用者に配慮した利用しやすさを重視する。施設全体で統一した運用を行うため、全体の管理運営計画「3.3.1 開館日・開館時間」に記載のとおりとする。

第4章 運営計画

4-1 基本方針

利用者にとって何度来館しても魅力的な施設であり続けるため、運営については、体験講座、設備、諸室仕様、運営方法、展示、オンライン、仮想環境への対応に至るまで、利用者ニーズや社会動向の変化に対応しうる柔軟性や可変性が求められる。そのため、運営の基本方針は以下のとおりとする。

(1) 常に魅力的で柔軟な運営を行う

ア 常に魅力的で新しい体験と出会いの創出

県内関係機関との連携を図り、多様な主体との事業展開の実現により、常に魅力的で新しい体験や多様な人々との出会いの創出に努め、創造活動が生まれる環境を整える。

イ 施設事業の進捗に合わせた柔軟な運営

社会動向や県民ニーズの変化に合わせて、テーマに即した地域関係者や専門人材との連携を図ることや、県民活動の進捗や成果を施設の展示や企画に反映していくことなどが考えられる。そのため、施設事業の進捗に合わせた柔軟な対応ができる運営とする。

(2) 運営の持続可能性を高める

ア 利用者満足度を高める、事業評価・分析・改善の実施

講座の参加者アンケートや施設利用者満足度調査などを定期的かつ継続的に実施し、分析結果を事業運営に活かすことで、事業の質の向上や魅力づくりに努める。

イ 安定的、継続的な事業実施と仕組み

新しい情報や文化の創造や課題解決に向けた創造活動には、事業の安定性と継続性が重要となる。そのために、運営の効率化を図り、予算を適切かつ最大限効果的に活用することに加え、運営事業協力者を確保し増やしていくなど、運営負担の軽減に努める。

(3) 県民の主体性を大切にする

多様な県民ニーズに寄り添いながら、施設が提供する体験講座やプロジェクト等をきっかけに、県民自身の「こうありたい」を自ら実現するための行動力、他者との協働に向けた相互理解、

新しいことに挑戦する姿勢や創造力を育む。

ア 県民参加型の事業運営

県民主催の創造活動の実施や想いを受け止める場として、事業運営に参画できる仕組みを設ける。県民の創造活動を支援するとともに、主体的に運営していく機会を提供する。

多様な利用者ニーズに即したアイデア等は、事業運営に反映していくことで、利用者にとって親しみが持て、魅力的な施設運営にもつなげる。

イ 多文化共生・社会的包摂の実現

創造的な活動を促すためには多様な背景を持つ人々が交流し、自分の意見を安心して発信し、他者の意見も受け入れ、建設的な意見交換ができるような環境づくりが必要となる。そのため、ユニバーサルデザインを徹底し、心のバリアフリーにつなげ、誰もがフラットな立場で活動できる環境づくりに配慮する。

ウ 郷土への誇りと愛着を育み、コミュニティ形成の場を創出

本県が有する多彩な資源(人・モノ・コト・技術や情報等)を最大限活用した事業展開をすることで、県民が本県の魅力を再認識する機会とするとともに、施設への愛着や郷土への誇りを育み、創造活動につながるコミュニティ形成につなげる。

4-2 運営手法

(1) 想定される業務

交流スペースの主な業務は以下のとおりとする。なお、今後地域へのヒアリングを通じた県民ニーズや社会動向の変化に合わせ、最適な内容を検討し、更新していく。

表 4-1 業務内容例

事業・業務区分	想定業務内容
1. 事業運営：本施設の本来目的を実現するための事業	
学び事業	<p>【多種多様なメディアによる情報提供】</p> <p>■ 情報発信コーナーの運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種画像・映像等情報コンテンツの企画・編集・制作・情報更新・現物のデジタル化^{※1} ・活動の成果物の展示・活動紹介・意見募集等の掲示^{※1} <p>【テーマ別配架による知的好奇心の喚起】</p> <p>■ テーマ別配架コーナーの運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの設定^{※1} ・開架資料の選定^{※1}、購入、展示、運用 ・季節や話題になっている事柄、プロジェクト活動等に合わせた企画展示 <p>【学び・体験機会の創出】</p> <p>■ 体験講座やイベント等の企画運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心を持った人が気軽に参加できる体験、連続講座、イベント等の企画運営 ・テーマ性を持った講演会・ワークショップ等の開催 ・専門的な設備・備品を使用した本格的な体験講座の開催 ・企業や大学等との連携による体験講座やイベントの開催
交流事業	<p>【情報交換の場の提供】</p> <p>■ オープンコラボレーションスペースの運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者相互の自由な情報交換の促進 <p>【交流機会の創出】</p> <p>■ 交流プラットフォームの提供・運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心層のすそ野を広げる施設諸室を活用した交流会やイベントの企画運営 ・関心を生む体験講座の開催 ・施設の積極活用のための施設 PR 活動（館内案内ツアー、取組紹介等） ・施設の広報活動（WEB・SNS 等の運用） ・異なる業種や官民をつなぐネットワークの構築 <p>【地域の大学との連携】</p> <p>■ 世代間交流・異文化理解を促す交流会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに地域・大学コンソーシアム等との連携
創造事業	<p>【創造活動する場の提供】</p> <p>■ 創造活動に対応したラボの運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラボ等活動場所の運用や備品の貸出 <p>【課題解決の取組支援】</p> <p>■ プロジェクト活動の企画・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト事業の立案 ・プロジェクト遂行や自主的な学びに必要な技術を学ぶための講座の企画運営 ・県主催プロジェクトへの県民参加呼びかけ ・県民主催プロジェクト支援 ・講座やプロジェクトへの地域関係者の巻き込み ・参加者分析 <p>【創造活動成果の発表・発信】</p> <p>■ 各諸室を活用した活動成果の発表・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの成果を見える化する展示・Web 配信・発表・コンテンツ制作・支援・各種デジタル化・アーカイブ ・各種ツールによる効果的な情報発信 ・取材対応、メディアへの情報提供、パブリシティ活動
2. 施設運営^{※2}：運営をサポートする事業	
総合受付 ・案内業務 ^{※1}	<ul style="list-style-type: none"> ・施設案内、受付、電話応対関連業務 ・来場者対応（迷子・遺失物・要救護者対応等） ・利用者登録事務 ・館内端末貸出業務
施設貸出業務	<ul style="list-style-type: none"> ・予約受付、使用料金収受対応 ・施設予約台帳の作成、管理 ・施設貸出申請手続き対応（利用受付、使用許可、キャンセル・変更対応など） ・貸出施設諸室における設備・備品等に関する維持管理
3. 経営企画・管理：人事や経理に関する事業	
総務・経理	<ul style="list-style-type: none"> ・庶務、勤怠管理、経理・予算管理
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズ調査を含む事業評価全般の企画・計画立案・実施 ・施設に対する外部評価収集

※1 図書館司書・直営職員と共同で実施

※2 施設維持管理業務は県立中央図書館全体で一括して行う。

(2) 運営手法

交流スペースの運営は、多様な形態での情報発信、魅力ある体験講座の実施、地域・大学・企業等との連携体制の構築、地域の課題解決に向けたプロジェクトの実施、高度なオンライン技術やコミュニケーションデザインによる Web サービスの運営など、業務内容が多岐にわたり、実施にあたってはこれらの業務を効果的に実施することのできる実行能力が求められる。

したがって、交流スペースは、民間事業者のノウハウを活用することにより、多彩な魅力ある事業を利用者のニーズに応じて効率的・効果的に展開することを目指す。

(3) 運営組織と体制

ア 基本的な考え方

確実な業務遂行ができる運営組織と人員体制を構築する。同時に、本施設の運営にあたっては、県民が多様な情報に触れる機会を増やすこと、主体的に創造活動を行うことを支援し、地域や県に縁のある多様な方々の協力を得て進めることも重視する。そのため、県民や地域との協働・連携の仕組みづくりも行う。

加えて、新県立中央図書館全体として統一感を持って事業を行うため、館内で連絡会議を定期的に行い県直営で運営する従来の図書館機能との連携体制を確実に構築する。

イ 人員体制(案)

本施設において想定する事業内容や運営体制、人員配置及び施設面積を基に、必要となる人員を配置する。さらに、イベントやプロジェクトなど業務に応じて適宜非常勤スタッフを配置し、最も効率的かつ合理的な人員配置を今後検討していく。

表 4-2 想定人員体制例

役割	主な想定業務内容
マネジメントディレクター	<ul style="list-style-type: none"> 事業全体の統括責任者。主に経営企画・管理業務を担う 図書館長やプロジェクトディレクターと情報共有や協議を図りながら、事業全体のマネジメントを行う
展示イベントスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 主に情報発信事業を担う テーマ別配架コーナーの多様なメディア選定を中心に、交流スペース全体の展示・コンテンツの企画・制作・編集 従来の図書館機能との連携イベントや交流イベントの企画運営
コーディネートスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 主に連携促進事業及びプロジェクト創出事業を担う 運営や事業連携する地域・県民とのネットワーク形成及び会議体の運営 県民主権プロジェクトの相談対応及びマッチング支援
プロジェクトスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 主にプロジェクト創出事業を担う 体験講座や県主催プロジェクトの企画・運営 コーディネートスタッフと連携し、体験講座・プロジェクトへの関係者の巻き込み プロジェクトディレクターと協働し、県主催プロジェクトの推進
施設管理スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 主に施設の事務や総務関係全般及び施設運営を担う 来館者対応(受付、案内等) 施設利用予約管理、施設使用料管理 マネジメントディレクターと連携し、スタッフ管理・経理 施設広報 (HP、SNS等管理) 及び対外広報対応(取材等)
プロジェクトディレクター	<ul style="list-style-type: none"> 主にプロジェクト創出事業を担う マネジメントディレクターやプロジェクトスタッフと連携し、県主催プロジェクトのテーマに合わせ、担当プロジェクトの事業推進や関連事業との連携促進等、牽引役を担う専門性を持った人材または企業等を想定 プロジェクトの専門性と実施数に変動があるため、非常勤を想定

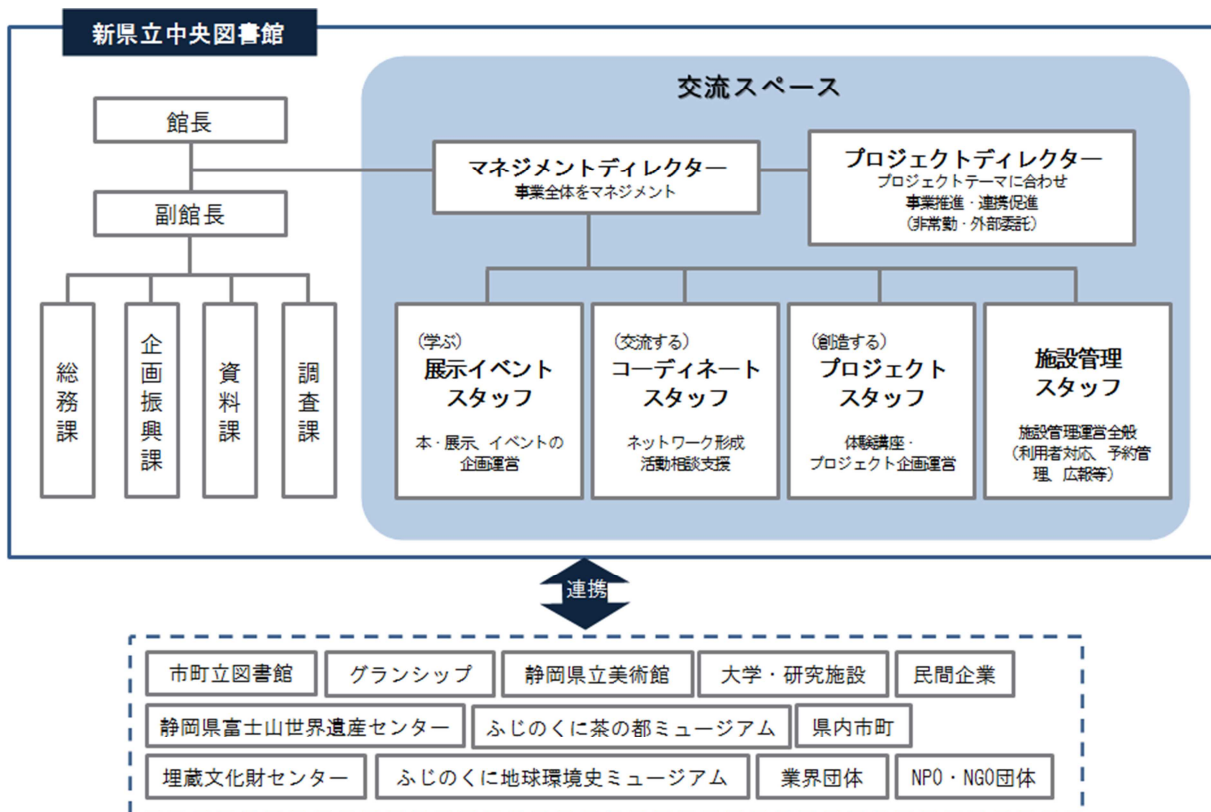


図 4-1 運営体制例(図)

ウ 運営システムの構築

上記業務を想定した場合、利用者の利便性向上と運営者の業務効率化を図るため、業務を支援する運営システムを導入する。なお、導入するシステムの内容については、事業内容と関係性が高いため、運営者の意向を反映できるように配慮する。

また、従来の図書館機能における業務システムとの一元化も検討しているため、詳細については引き続き検討する。

表 4-3 想定される交流スペースの運営システム例

区分(例)	導入するシステム(例)
運営管理	利用者情報管理、アンケート集計・分析、予約管理、会計管理、労務管理
安全管理	防犯カメラ、施錠管理
ネットワーク	館内Wi-Fi、ソフトウェア、Web 会議
コンテンツ管理	書籍、映像・画像、体験講座・プロジェクトデータ、その他資料の管理、デジタル化、配信
情報発信・コミュニケーション	施設ホームページ、SNS、利用者コミュニティサイト 等
利用者サービス・管理	施設利用者専用アプリ、資料検索、複写印刷